



宮城県南三陸町立歌津中学校
校長 羽賀 正晃

1 「歌津中少年防災クラブ」の結成

「歌津中少年防災クラブ」は震災前にその結成が検討され、4月にスタートを予定していましたが、東日本大震災が起これ、その発足が危ぶまれました。

震災の際、歌津中学校体育館には約800人が避難し、その年の8月11日まで本校での避難生活が続きました。生徒たちはその間、自分たちにできることを行いました。しかし、もっといろいろなことを手伝いたい、みんなのために、地域のためにもっともっと多くのことに取り組みたい、役立ちたいという思いをもって避難所生活を送っていました。そういう生徒の思いが、震災後に改めて「歌津中少年防災クラブ」を発足させようという力になったことは確かであると思います。全校生徒で組織し、本校の防災教育の取組のすべてが少年防災クラブの活動として位置付けられています。また、2・3年生の代表者で構成される少年防災クラブ「代表委員」の活動として、他校や地域との交流、また通常点検訓練や軽可搬ポンプ操法訓練などの代表委員訓練を



代表委員による通常点検訓練の発表

行っています。

2 歌津中学校区防災協力者会議

平成24年5月、歌津中学校の防災教育の支援と、さらに将来的には歌津中学校区の小中学校の防災教育を推進することをねらいとして発足しました。今年度は24名で構成し、年2回の会議を開催します。

教職員が転勤をし、人が入れ替わっても地域の方々や消防署、また町教育委員会等のメンバーで構成される本会議は、継続して歌津中学校区の防災教育に携わっていただくことができるものと思います。



歌津中学校区防災教育協力者会議の様子

3 生徒が主体となる「避難所運営訓練」

1学期、規律訓練から始まる各種訓練を統合したものとして位置付けるもので、防災に関するスキルを実際の災害に近い状況の中で、使わざるを得ない設定の中で本当に使うことができるかどうかを訓練します。

生徒が40歳、50歳の大人になったとき、再び大きな津波が襲ったとする設定で実施します。ほとんどの教職員は避難



避難所運営訓練 朝の登校風景

民として参加し、生徒の安全面に関する
こと以外は口出ししません。避難所の開
設から救護所の運営、水の確保に昼食の
炊き出し、消火訓練にけが人等の手当な
ど、適切な判断力が求められます。生徒
たちは状況を把握し、考え、判断して行
動します。もちろん失敗もありますが、
それも大切な体験です。



訓練火災発生！バケツリレーで消火

4 更なる発展を目指して

平成26年度から防災教育の年間計画を
再構築し、全校で実施する体験的な活動
に加え、学年ごとの学習を設定しまし
た。1年生は「地域を知ろう」2年生は
「地域について学ぼう」3年生は「防
災・減災について調べよう」という学年
テーマに基づいた学習です。

これまでの防災教育を継続するととも
に、より発展させていきたいという生徒・
教職員の思いです。本校の防災教育は着
実に“伝統”になりつつあります。伝統



1年生「地域安全マップづくり」危険箇所調べの活動

をしっかり受け継ぎ、持続させ、より発
展させることができる活動に高めていき
たいと思います。

5 「地域」とともに

本校の防災教育は多くの地域の方々の
協力と支援で成り立っています。生徒た
ちはそのことを理解し、また東日本大震
災の経験から地域に貢献したいという思
いをもっています。その思いを生かし、
地域の中で自らの役割を自覚し、責任を
もって果たすという姿勢を育てていくこ
とが本校防災教育の一つのねらいです。
生徒たちは、将来、どこで生活すること
になるかわかりません。しかし、沿岸
部・内陸部・都市部等どこで生活するこ
とになっても、災害が起こったときは、
まず自分の命を守ることを第一とし、そ
れぞれの生活する地域の一員としての責
任をしっかり果たしてほしいと願ってい
ます。



南三陸町防災訓練に参加した少年防災クラブの代表委員